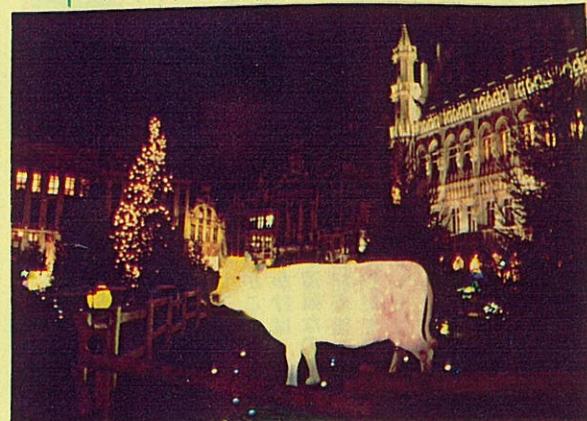


第7号

年刊

月刊クリスマス

これが隕のブリュッセル・牛
クリスマス。虹色の牛…。日本クリスマス協会
発行人 のびのぶ編集長
発行所 のびのぶ工房日本クリスマス協会
栗須増子会長の挨拶★研究① オランダ編
『飾り窓』にはクリスマスの
飾りはあるのか。皆さま、メリークリスマスです。
年刊『月刊クリスマス』はなかなか
月刊にならないまま、7号を迎
ました。そしてやっぱりお正月發
行になりました。すいません。2001年は色々な悲しいこと
がたくさん起きました
が一日も早く来ることを祈るばかりです。
そのうち、ライバル誌『月刊ラマダン』が登場
するかもしれません、仲良く頑張りたいと
思います。がたくさん起きてしました
ね。会長も後半はCNNばかり見
て過ごしました。クリスマスとか、
ラマダンを平和にお祝いできる日
がたくさん起きてしました
が一日も早く来ることを祈るばかりです。
そのうち、ライバル誌『月刊ラマダン』が登場
するかもしれません、仲良く頑張りたいと
思います。のびのぶ編集長より
クリスマス研究の
現況についての報告

2001年は、いよいよ本当に船乗りになつたのかと思うほど、船に乗りました。3月から毎月のように、合計9隻の船に乗り、合計17カ国をまわりました。1泊10万円の超豪華客船から、8日間で食べ物も全部入れて8万円のカリブ海・大衆客船、建造37年のクイーンエリザベス2から、できたてほややの新造船まで、それは楽しい経験でした。表向き、これらはクルーズのムックのための取材でしたが、実は世界のクリスマスを密かに調査するというのが本当のミッションであり、追加で世界ののら犬との接触を図る航海だったのです。任務は成功し、カナダのピクトリアに数件の超ビッグなクリスマスショップを発見、また、各国のクリスマス工作員やのら犬たちとの接触もできました。タリアのクリスマスを堪能して参りました。

★研究② ベルギー編
がっかりの巻。

のびのぶ編集長は、アムステルダムにツリーを見に行っています。のびのぶ編集長が「アムステルダムにツリーを見て、ベルギーのジャーナリストのバーおじさんが「ベルギーの方がスゴイから、絶対ベルギーのも見にく」と言つたら、ベルギーのジャーナリストのバーおじさんが「べ

りが途中で破損してしまった。しかし、なんと今年に限つて運搬中だったツリーが、たまたま運搬中に倒れてしまつたのです。のびのぶ編集長は、アムステルダムにツリーを見に行っています。のびのぶ編集長が「アムステルダムにツリーを見て、ベルギーのジャーナリストのバーおじさんが「ベルギーの方がスゴイから、絶対ベルギーのも見にく」と言つたら、ベルギーのジャーナリストのバーおじさんが「べ

のびのぶ編集長の長年の疑問は、オランダの赤線地帯『飾り窓』にはクリスマスの飾りはあるのか…でした。急速、オランダ人の雑誌編集者ロルフ氏に案内してもらいました。赤い電灯のついた『飾り窓』というより『飾りドア』の前で、お姉さんたちがセクシーなポーズを取っています。疲れないのか…と心配になるくらい、本当に一生懸命ボーバーズしています。プライバシー保護のためか、撮影は禁止です(遠慮しない)。ロルフは「ボクが美術の先生で、ノブコは学生つてことにして、アートのために写真を撮らせても頼もうか?」といふ爽晴らしい知恵を絞つてくれましたが、気の弱いのびのぶ編集長はありがたく辞退しました)。

結論は『飾り窓』はとってもシンプルで、クリスマスだからといって飾りはありませんでした。コーヒー・ショップもあつて、アムステルダムは実にヘンな街です。歩いている人と話してみると、腰を抜かすほど、精神的に自由に生きていました。

のびのぶ編集長は、とりあえずイタリアのクリスマスにも行ってみることにしました。

これまでジャーナリストのマルコたちがミラノのアパートを貸してくれ、「クリスマスと言えばベニスさ」と言って連れていってくれました。しかしキアリア20年以上のトラベルジャー・ナリストと一緒に行くといふことは、歩く、歩く、歩く、3日間、ベニスを歩き続け、本気で歴史や美術や建築の説明を受け、撮影の手ほどきを受けて、とっても勉強になりましたが、体力のないのびのぶ編集長はどうんどん衰弱していました。

「コーヒー飲みたい」とか、「休憩したいよ」と泣きべそをかく、「エスプレッソはスタンドで立つたままだと安いんだ」「座りたい

なら教会でね。日本の寺と違つて、無料だけ静かだし」という返事…。ああ、トラベルジャーナリストへの道はまず腹筋から…

そう認識して帰国しました。もちろんお買い物なんて1回もできませんでした…。

わざわざ選んでスイス航空でイタリアまで飛んだのですが、なんと旅行中にスイス航空が潰れてしまい、大荷物を背負つて鉄道移動したりというハプニングもありました。しかし、祐子さんは旅を満喫してくれたようです。初めは「最初で最後の海外旅行だわね」と言つていたのが、いつの間にか「今回は荷物を持ってきて過ぎちゃつたけど、今度は少なくしていくわ」と展望を語つていてました。また行こうね。

★祐子さんの2001年71歳の今年、挑戦したのは旅行だけでなく、バービーと一緒にインターネットにも挑戦しました。初めは、「げんきよう」というメールが精一杯だったのですが、いまやいつもどおりに「しっかりと人生を見つめ貴女の道を歩んでいきなさい」なんていう厳しい激励メールが届くようになりました。今は、いろいろな国にツリーを贈つて、サンタさんの国・フィンランドをいよいよ指したいと思います。

というわけで、2001年も皆様のおかげで、有意義な研究を行うことができました。今年は、いろんな国にツリーを贈つて、サンタさんの国・フィンランドをいよいよ出でます。今年は何に挑戦するのでしょうか。

はばたけ、祐子さん。

研究③ イタリア編
クリスマスは
まず腹筋から。

今年は「日本におけるイタリア年」ということで、ミーハーにイタリア語を習い始めたのびのぶ編集長は、とりあえずイタリアのクリスマスにも行ってみることにしました。

これまでジャーナリストのマルコたちが

ミラノのアパートを貸してくれ、「クリスマスと言えばベニスさ」と言って連れていってくれました。しかしキアリア20年以上のトラベルジャー・ナリストと一緒に行くといふことは、歩く、歩く、歩く、3日間、ベニスを歩き続け、本気で歴史や美術や建築の説明を受け、撮影の手ほどきを受けて、とっても勉強になりましたが、体力のないのびのぶ編集長はどうんどん衰弱していました。

「コーヒー飲みたい」とか、「休憩したいよ」と泣きべそをかく、「エスプレッソはスタンドで立つたままだと安いんだ」「座りたい

なら教会でね。日本の寺と違つて、無料だけ静かだし」という返事…。ああ、トラベルジャーナリストへの道はまず腹筋から…

そう認識して帰国しました。もちろんお買い物なんて1回もできませんでした…。

わざわざ選んでスイス航空でイタリアまで

飛んだのですが、なんと旅行中にスイス航空が潰れてしまい、大荷物を背負つて鉄道移動したりというハプニングもありました。しかし、祐子さんは旅を満喫してくれたようです。初めは「最初で最後の海外旅行だわね」と言つていたのが、いつの間にか「今回は荷物を持ってきて過ぎちゃつたけど、今度は少なくしていくわ」と展望を語つていてました。また行こうね。

★祐子さんの2001年71歳の今年、挑戦したのは旅行だけでなく、バービーと一緒にインターネットにも挑戦しました。初めは、「げんき

よう」というメールが精一杯だったのですが、いまやいつもどおりに「しっかりと人生を見つめ貴女の道を歩んでいきなさい」なんていう厳しい激励メールが届くようになりました。今は、いろいろな国にツリーを贈つて、サンタさんの国・フィンランドをいよいよ出でます。今年は何に挑戦するのでしょうか。

はばたけ、祐子さん。

のNEWS
祐子さん

旅に出る。

青い古ぼけた座布団の上にいつも犬が寝ていた。

CM
読むクルーズ

もっと若い女の子たちに気軽に客船に乗ってほしい~と『読むクルーズ』というムックを作りました。外国船12隻のルポから船の遊び方、お洋服のことまで詳しく紹介。Dr米山と細野晴臣さん、酒井順子さんなどの対談もあります。対談やグッズ以外の写真は全部のびのぶ編集長が撮ったもの…成長の軌跡が見られます。取材も編集もなかなか大変でしたが、自由に作らせてもらえたのと、編集部の皆さんととても協力的だったので楽しく作れました。この本を作れて一番うれしかったのは、「癒しの犬たち」というのびのぶ編集長撮影の世界の犬のページが4ページもあることです(笑)。超かわいいのでぜひ買ってください~。(海事プレス社 03-5296-1285 1200円)

米山公啓(よねやまきみひろ)
作家&医師。絵も描きます。2001年は、NHKの『アラスカ力悠久客船紀行』に出演、好評でした。2002年で著書が100冊になります。

数日後、犬のいた家の前を通りてみると、きれいかクリスマスツリーが飾つてあった。ツリーには綿が雪のよう付けられていた。



きっとあの犬が寝ていた座布団の綿なのだろう。犬はどこへ行ったのか、まだにだれも知らない。おわり



ある日、その犬の姿がなくなつた。どこへ行つたのかだれも知らない。

時々、目を覚ましたように、こつちを見た。しつぽはちょっと動かすが、また寝てしまう。

雪のよう



時々、目を覚ましたように、こつちを見た。しつぽはちょっと動かすが、また寝てしまう。



クリスマスのお話
Pictures & Story
米山公啓